

第2回京田辺市複合型公共施設整備基本構想検討懇話会

議事概要

<施設機能について>

- 文化ホールの規模としては、400～600席のニーズが多いのはわかるが、プロの楽団やちょっと名の知れた芸能人が興行できる規模（1500席程度）の検討もしていただきたい。
- 多様な使い方という点では、eスポーツの空間をつくることも考えられる。
- 文化の継承という観点から、市民が京田辺市に対してふるさとを感じてもらう仕掛けが必要。具体的には天理山古墳群、隼人舞など京田辺市の文化財を公開できるギャラリーの設置を検討いただきたい。
- 京田辺市立中央図書館には展示コーナーがあるが、図書館の中に展示機能を設けることは図書館の特徴を出すという側面からも考えられる。
- 現コミュニティホールのようなきちんとした設備のある展示スペースがあるとよい。
- 京田辺市には多くの文化財があるので、子どもたちが地元の文化を学ぶ博物館機能があると、施設の利用促進や学習機能を高めることにつながる。
- アニメの時代、子どもたちを集めるならシアター機能があるとよい。
- 複合型公共施設に地域子育て支援センターと児童館の機能が併設できれば、駅に近く、駐車スペースもあるので便利だと思う。

<融合のあり方について>

- 文化ホール、公民館機能、図書館機能の3つの機能をどうすれば融合したことになるのかがよくわからない。従来の機能に加えてプラスαなものがあれば融合的になるのか。市の目指す施設像が明確にならないと融合について検討しにくい。
- 買い物のついでにカフェや映画館に行くように、ついでにどこかに立ち寄るということが複合型公共施設での融合ということになると思う。「ホールで開催される音楽コンサートとそれにまつわる図書館の本の展示」などいろいろな融合のパターンを想定したほうがよい。
- 幼稚園でくるみ割り人形の演奏と絵本の読み聞かせをする“本と音楽の世界の融合”のような活動もしていることから、ホールと図書館の融合は身近に感じている。
- 図書館では、本を読む以外のことにどれだけ踏み込むことができるかを考えることができれば、複合化の意味（融合）が出てくると思う。
- 文化ホール、公民館機能、図書館機能、まずはそれぞれの施設を充実させた上で、各機能が連携してできる二次的、三次的副産物を考えるというスタンスで検討するとよい施設ができると思う。

<運営面について>

- 9ページの施設機能だけではあまり人が集まらないように思う。子育て支援施設などの

市民サービス機能を併設するなど、あらゆる人が集まるに仕掛けが必要。また、集まった人たちが掛け合わさって何かを創り出すために必要な機能について検討いただきたい。

- 利用者を増やすには、来館者がどうすればハッピーになるかを考えるべき。例えば若者たちは、“ゲームし放題”などいろいろなことが許されることにハッピーを感じている。そこは若者たちの安心の場。一定のルールは必要だが、そのようなコンセプトを盛り込んでいただきたい。
- 民間委託の可能性はあるが、文化ホール、公民館、図書館の管理運営を一元化するということはよい方向だと思う。
- 貸施設の利用料金の上限が決まっていると指定管理者が困るケースが多いので、指定管理者と協議して決めるなど改善していただきたい。
- 催しものなどの有料化にあたっては、収益活動は良いが、収益活動と営利活動の線引きをすることが課題である。
- 指定管理者制度を導入するにあたって、運営コストが下がる、貸出数が増えるなどの評価基準ではなく、将来の利用者あるいは今利用していない人も含めた利用者満足度といった評価基準を検討していただきたい。
- 京田辺市民の文化振興の中心的施設として市民優先ではあるが、市外の利用もあり得る。サービスの提供者が市民ではなくても、受益者が市民であればよいと思う。
- 放課後バスなどを運行し子どもたちが安全に施設利用できるようにしたり、学校に派遣いただける方たちの人材バンク的機能があったり、学校向けのオーケストラ鑑賞など学校連携を図ることによって施設運営も活性化されると思う。
- 子育て世代などは、カフェやレストランに行くついでに図書館に行くと思うので、目玉になるようなカフェやレストランがあることは重要。

<その他>

- 学生など若い世代、子育て世代など幅広く意見を聴取することにより、中高年の世代とは異なる目線や多様なニーズを見出し、長く使い続けられる施設づくりをしていただきたい。今はまだ生まれていない人たちが使う視点が必要だと思う。多様な子どもたちが訪れるような視点も入れていただきたい。
- 田辺の食材を使った料理を食べることができるなど、特に若い世代に京田辺のまちのよさが感じられる“田辺愛”を育てる施設にできたらよい。一方で、子どもも若者もここにいて楽しいかがどうかがすべてなので、そういうことも踏まえ、結果として田辺のことが好きになる人が増えていくような施設づくりを進める。
- 貸施設は、文化活動の場の提供とあるが、若者にとって“文化活動”はやや堅苦しい文言なので、“遊び空間”とするなど表現の工夫が必要。
- 施設の効率化については、イベント等で賑やかな時にも、静かに見学したい方への配慮を含めた効率化を検討していただきたい。